

豊橋新城スマートインターチェンジ（仮称）地区協議会

設立趣意書

豊橋市と新城市は、愛知県東部の東三河地域に位置し、古から交通の要所として栄えてきました。また、両市が接する豊橋市の北東部と新城市の南部地域は、4箇所の工業団地に加え運送業などの企業が進出するとともに、次郎柿をはじめとした農業も盛んな地域です。

しかしながら、高速道路インターチェンジへのアクセスに時間を要するため、インターチェンジ周辺の他地域と比べると、就業者数や事業所数の減少が著しく、生産性が低下しております。

さらに、豊橋市においては、災害時の広域支援ルートである国道1号や豊川インターチェンジから地域防災活動拠点である豊橋公園までのアクセス道路が浸水により通行できないといった懸念があり、新たな支援ルートの確保が求められております。また、新城市においても、新城市南部の八名地区から浜松市へ重篤患者を搬送する際、道路線形不良区間が多く、患者に大きな負荷がかかっていることから、より患者負担の小さい高速道路利用が求められています。

こうした地域の問題に対応するため、豊橋市と新城市が共同で新たな玄関口として豊橋新城スマートインターチェンジ(仮称)を整備することは、地域防災活動拠点までの新たな支援ルートや緊急搬送ルートの確保に加え、東名高速道路へのアクセス性向上に伴う既存企業の物流の効率化や生産性の向上とともに新たな産業振興など地域活性化に大きく寄与するものと確信しております。

今後、これを具現化するためには、国土交通省、愛知県、愛知県警察、中日本高速道路株式会社、豊橋市及び新城市の関係機関が連携して、スマートインターチェンジの設置に向けた検討・調整を行うとともに、供用後も継続してその社会便益、安全性、利用交通量、管理・運営形態等について定期的にフォローアップをし、必要に応じて見直すことが必要不可欠です。

そこで、これらを実行する組織として「豊橋新城スマートインターチェンジ（仮称）地区協議会」を設立するものです。

令和3年6月21日

豊橋市長 浅井由崇

新城市長 穂積亮次